

編集後記

過去 22 年間に 226 冊の『理学療法と作業療法』の雑誌を読者に提供してきた本誌が、新生『理学療法ジャーナル』として、再出発することになった。

新生第 1 号の編集後記を書くに当たり、感慨無量なるものがあるのは筆者 1 人ではあるまい。

特集「理学療法の展望」を編集するに当たって、本誌が名実ともに理学療法の専門誌としてどのような役割を果たしていくべきかを考えざるをえない。

本号には、多くの理学療法士から提言をいただいた。さすがに、理学療法の各分野でそれぞれ一家言をもつ先生方であるだけに、傾聴するに価する内容ばかりである。

また、理学療法士以外の医師、MSW、ST ほかの先生方からの提言も身に沁みて感じることは、はなはだ大なるものがある。

これら 15 名の先生方の提言の内容は、理学療法士個人だけでなく、職能団体としての進むべき指標となるものである。

ここに示された提言を実現するために、努力していくことが、理学療法の進

歩、発展につながり、プロフェッションとして責任を果たすことになるのではないかと思う。

本誌の編集もこのことを念頭において、今後進めていく必要がある。

講座は新しく、「理学療法評価」をシリーズとして連載することになり、第 1 回は、評価の考えかたを嶋田氏に執筆していただくこととなった。もう一つの新しい講座は、「科学としての理学療法学」であり、「科学としての理学療法学の立場」を奈良氏に書いていただいた。いずれも力作であり、今後のシリーズが期待される。

本誌の新機軸として、「論説」が加わり、工藤氏に第 1 回を飾っていただいた。内容的にも傾聴すべきものがある。編集室による「PT 最前線」も期待できる企画であり、今後に望みを託したい。

最後に、本誌の専門誌としていつそうの充実を図っていくために、読者諸氏の御批評、御提言をおおいに期待しています。

(松村 秩)

理学療法ジャーナル

(第 23 巻 第 1 号)

1989 年 1 月 15 日発行(毎月 1 回 15 日発行)

1 部定価 1,350 円(配送料 60 円)

〔年ぎめ予約購読料 15,360 円〕
〔送料弊社負担〕

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 社内案内(03)817-5600

本誌編集室直通(03)817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)817-5659・5660

広告室直通(03)817-5696

ファクシミリ(03)815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1989, Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

●編集顧問●

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
東京都立医療技術短期大学
学長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビリテ
ーションセンター総長

横 山 巖
七沢リハビリテーション老人
病院院長

(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

安 藤 徳 彦
神奈川リハビリテーション
病院

上 田 敏
東京大学リハビリテ
ーション部

鶴 見 隆 正
高知医科大学附属病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短期大学部

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
東京都立医療技術短期大学

吉 尾 雅 春
協和会病院

●編集同人●

伊 藤 日出男

今 川 忠 男

宇都宮 初 男

大喜多 潤

大 田 近 雄

大 峯 三 郎

金 子 誠 喜

菊 地 延 子

工 藤 俊 輔

佐々木 伸 一

高 田 京 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

武 富 由 雄

寺 山 久美子

富 岡 詔 子

橋 元 隆

半 田 健 壽

藤 沢 しげ子

前 田 哲 男

牧 田 光 代

松 沢 博

丸 山 仁 司

宮 本 省 三

山 下 隆 昭

米 田 睦 男